

「君たちがいて輝いた」

坂口 裕靖

おもちゃ屋さんの売り場では、すでにゼンカイジャーの商品が所狭しと並べられ、通販ではキラメイジャー関連商品が投げ売りされて久しい今日のごろ、緊急事態宣言が終了した皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。桜満開の下、花見は禁止なのに聖火の方は肅々と東京を目指して進んでいるように思われます。こちらの時間線では第4波（っていうけどさ、11月後半に明らかなピークがあって、下がらずに悪化してって1月を迎えたから、本当は第5波なんじゃないの？）の上昇気配が見えた頃ではありますが、その後どうなったのでしょうか。収束してないですか、そうですか。

結局冬のうちにワクチンを打てることもなく、気がつけば春の甲子園が観客を迎えて実施中であり、治療薬関係については特に進展が聞こえてこないようです。このままなし崩し的に「感染ありき」「陽性上等」な状況へと推移しないことを祈るばかりです。まあ実際自粛要請が「打つ手なし」で

あると、国として判断した以上、もはや「自助」に注力する以外ありません。そしてそうして自粛し、結果的に経済活動に対して消極的となる向きに対して、非協力的だの経済を回せだのなんだの、（操作可能な）メディアをあげた「共助」キャンペーンが生じるんじゃないかな。巻き込まれずに済ませたいところです。

以前に比べて唯一マシであるのは、ワクチンが実在することであって、これにより多少状況が改善されそうなところです。しかしながら国内生産ができずに輸入に頼っている状況が続くとすると、筆者のような末端にまで届くようになるまで長くなるのではないのでしょうか。厚生労働省の「接種の実績について」が公表されているページを見る（これ、年度変わるとURL変わるんじゃないかしら...）と、現在だいたい1日あたりの接種回数が5万回程度程度です。仮にこれが10万ぐらまで増えたとして、億の単位を10万の単位で割るならば、当然1,000日の程度かかる計算に

なります。1,000日を365,2425で割れば2年と8ヶ月ちょい。係数が2倍程度ズレがあるとしても、最短で1年半、最長6年弱かかる感じでしょうか。いずれにしろ今年7月の時点において、「勝った証」を手に入れるのは困難と言っているでしょう。まあ、でも、やるんだよね？

まあそんなことよりキラメイジャーの最終話ですよ。ヨドン皇帝の硬った一い邪面を破る秘策は、結局ヨドン皇帝が自ら邪面を外す状況をつくることであり、ここでカナエマストーン・イリュージョアが生きてきました。イリュージョアが作り出す幻覚に包まれて、キラメイジンとギガントドリラーを「ヨドンデストロイヤー」で倒したと思い込んだヨドン皇帝は、自らの流儀に従い、倒した敵を食らうために邪面を外します。そこをすかさずキラメイジンが攻撃して邪面をもぎ取り、ギガントドリラーがキラキラのぶっといドリルでヨドン皇帝の顔をグリグリと攻め立てると、途端に巨大化が解け、等身大になって風車の見える場

One Point BUZZ WORD

笑うところ

敵幹部として登場したヨドン様。エピソード25にて為朝がキャッキョウフする相手として、巫女姿で登場しましたが、ここでヨドン様のキャラクターを方向づけた、決定的なセリフが出てきます。「人間は願いが叶ったら笑うんだ...」ヨドン様の人外的な雰囲気や醸し出すとともに、実はヨドン皇帝の別人格であったということから考えると、ヨドン皇帝は相手に対する情報を持たずとも、気にせずイケイケガンガンで侵略を繰り返していたことが伺えますね。泥をこねてヨドンチェンジャーを錬成して以降、ヨドン様というキャラクターは、この「笑い」をポイントとして描かれていくこととなります。人間がどんなに知らずに侵略しようとしているようなヨドン皇帝だからこそ、楽しいという感情に対する理解が足りないのかもしれないかもしれません。どっちかと

いうと流れに流されて侵略して、気がついたら地球に到達していたという感じではないでしょうか。そりゃ別人格作りたくなるほど寂しいよねえ。

なのに、エピソード44ではカナエマストーン・デストリアの攻撃を受ける直前、ヨドン様を切り捨てるヨドン皇帝。「ボクは愛されていなかったの？ここは泣く所であってかな？」と問うヨドン様。ヨドン皇帝は「ここぞ笑うところだろ」と言い放ち、ヨドン様は「無理」といって倒れ、青い炎となります。てっきりここで出番終了かと思ったら、実はファイナルエピソードのトップカットにつながって、皇帝にとって自分が何だったのか問うヨドン様に対し、無意識のうちに仲間を求めていた弱さだ、と皇帝。自分が消えることにより皇帝が絶対的強者になれると聞き、ヨドン様は「良かった」と言いながら、初めて見せる満面の笑みを浮かべ、キラキラした泡として消えていくのでした。結局キラメイジャーという作品は、ヨドン様が笑顔を獲得するまでの話だったので。

所へ吹っ飛ばすのでした。つかヨドン皇帝って蛇だったのね。邪面を外すとそれより大きな顔がでてくるのは、多分邪面の中にぎゅうぎゅうに押し詰められてたんだと思います。だから破壊不能なほど、宇宙一硬い邪面であったのでしょうか。そりゃストレスが溜まって別人格を作りたくもなりますわな。

等身大となったヨドン皇帝に対し、マブシーナが「あの方々は、悪逆非道なあなたに引導を渡す、輝きの戦士たち！きらめきに満ちたその顔を、しかと拝みなさい！」とメンバーを指差します。キラメイジャーを全員が素顔で現れたのはいいとして、あのむちゃくちゃな決めポーズ（補足しますと、イエローがシャチホコ状態のグリーンの左手と右足を掴んで左足の上に乗って支え、ブルーの左肩にピンクが乗って水平バランスをとるなか、レッドは長崎の平和祈念像左右逆転バージョンみたいなポーズを取りつつ、シルバーは最前線でグラビアポーズ）をキメたのはびっくりしました。キラフルゴーアローのゴーキラメイジャーポーズなら5人で横並びになるだけなので、てっきりそっちの方をやるのかと思ってましたが、まあストーリー上キラフルゴーアローを使うことができない（ヨドン皇帝を倒すために取っておかなくてはならない）ため、ノーマルポーズを取ったのでしょうか。わずかに数秒とはいえ、大したもんです。大変心打たれました。

こうしてヨドン皇帝は倒され、半ゾンビ（というか、半ベチャット）状態だった柿原さんももとに戻り、ヨドンヘイムの脅威は去り、カナエマストーンの力によってクリスタリアは再興を遂げました。めでたしめでたし。ラストでは柿原さんと充瑠が仲良くしている姿も描かれ、そして旧ヨドンヘイムのクランチュラから充瑠に対して、もう侵略しないという電話（が、どういう経路でつながってるのか不明ですが... まあ充瑠の受け側機材として電話しかないから、

CARATの方で色々手を尽くしたのでしょうか、きっと）がかかってくるというほのぼの具合です。いやー大団円じゃないでしょうか。ヨドン様は消えてしまいましたが、満面の笑みを浮かべていたのですから、おそらく思い残すこともなかったではないでしょうか。

そんでは、キラメイジャーロスを癒やすために、生まれて始めてシアターGロッソにも行ってきましたよ。筆者的には「後楽園で、ボクと握手！」なわけですが、今はシアターGロッソなのね。屋内なので、当日雨で遊戯施設が全面的に使えなかった状態だったにも関わらず、全く問題なく入場できました。感染防止策として座席は一つおきに使うようになっていて、実質的なキャパは300ぐらいでしょうか。子供連ればかりかと思っていたところ、思いのほか大きなお友だちが多かった様に思います。特別公演で6人全員が揃うので、なおさら大きなお友だちが多かったのかもしれない。というか、大きなお友だちの過半は女性でしたし、子供連れも女の子が多かったように思います。時代ですね。

感染防止対策として大きな声が出せないため、せっかくのナマさよ姉でも声は掛けられなかったのですが、心の中で声帯が破裂するほど声を出しておきました。ステージの方はキラメイチェンジも素晴らしく再現されてて、奈落への飛び込み、ワイヤーワークも素晴らしく、そいでもって無茶苦茶な決めポーズもきちんとやってくれて、大満足。いい時間帯のチケットは売り切れていたため、入手できたのは朝9時半開演という、演者さん

にはなんと大変そうな回であったにもかかわらず、キラメイダンスにてアトムにいやんが千切れんばかりに手足をぶん回していたのが大変印象的でした。大きなお友だちの中にはゴツイ双眼鏡持参の方々もいらっしゃいましたが、さすが歴戦の勇士は違いますな。ところで演出上観客の持っている専用の「ペンライト」が重要な役割を果たすのですが、これペンというよりはウチワ状です。そのほかにも色々渡されるので、袋など、何かしまえるようなものを持っていくことをおすすめします。

終わった後、併設のお土産売場を覗いてみたところ、キラメイジャー関連の商品がまさに投げ売り。半額で「在庫限り」とのことでした。戦隊シリーズが続いていくためにはビジネスとして継続することが求められ、ということは飽きられないために常に新陳代謝が必要であり、だからこそ在庫処分というのは重々理解しているものの、少々悲しいところです。まあ一方で戦隊シリーズの玩具を集めるならこの時期が狙い目なんだな、という学びもありました。コロナの中、明るさをありがとうキラメイジャー。と、博多南。

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.

映像スタジオ施工

多様化するデジタル映像環境に対応、映像スタジオ施工なら豊富な実績、直営システムに依る徹底したコストダウンを実現する



匠の技をスタジオに

MA室ブース各種編集室

新設、リニューアルに関わらず何でもご相談ください。

～映像・音響専門で

43年～

(映像・音響・防音・建築・設計・施工)

一級建築士事務所

高橋建設株式会社

本社 〒216-0032 神奈川県川崎市宮前区神木1-7-8

TEL044-853-0547 044-852-1588

(社)日本ポストプロダクション協会会員 / (社)日本音楽スタジオ協会会員
(社)日本音響学会会員

http://www.takahashi-kensetsu.co.jp
info@takahashi-kensetsu.co.jp